

**入場  
無料**  
定員**70**名

# まちで暮らそう、 家で暮らそう、 あなたを支える在宅医療



## 在宅療養相談会

12:00～14:00

医師、歯科医師による医療相談  
管理栄養士による食事・栄養相談  
薬剤師によるお薬相談  
看護師による看護相談  
ソーシャルワーカーによる介護相談  
食品サンプル配布

**日時**

2014年

**2月11日** (火・祝)

**会場**

**ピュアリティまきび**

岡山市北区下石井2-6-41

- 飛鳥の間(在宅療養相談会)
- 飛翔の間(講演会)

**講演会** 14:00～16:00

**①部**

**演題** がん患者さんの在宅医療

**講師** 井上裕昭 先生 (井上クリニック院長)

**②部**

**演題** がんの最期を家で過ごすということ

**講師** 守屋 修 先生 (守屋おさむクリニック院長)

# FAX 申込書

## 【講演抄録】

① **演題** 「がん患者の在宅医療」  
**講師** 井上クリニック  
 院長 井上 裕昭 先生

② **演題** 「がんの最期を家で過ごすということ」  
**講師** 守屋おさむクリニック  
 院長 守屋 修 先生

我々が玉島地域の在宅ホスピス治療を始めて15年が経過します。その間、仲間の医師と試行錯誤の末、癌患者の看取りを行ってきました。分子標的薬や癌幹細胞の研究は将来に希望を持たせる一方、主に在宅治療を行っている医師たちからは、「大往生したけりゃ、医療とかかわるな」「癌放置療法」「平穏死10の条件」などのQOLを損ねる治療への戒めと思われる本がベストセラーとなっています。我々が、経験の中から得た知恵をこの機会に発表させてもらいたいと思います。

国民の1/3はがんで命を落としています。その多くは、最期の時間を住み慣れた家で過ごしたいと希望していますが、実際にそれが叶うのは6%程度に過ぎません。在宅療養に対する知識や情報不足のため、人生の集大成に当てるべき大切な時期が、がん治療にのみ当てられている現実を度々直面します。家族と共に、住み慣れた自宅で至福の時間を過ごした方々を紹介し、遺された最期の時間を家で過ごすことの素晴らしさをお伝えしたいと考えています。

1. 鎮痛剤が効かなくなったら。
2. 衰弱して食事が食べられない。点滴する？
3. 腹水がたまるがどうするか。抜いたほうがよいか？
4. 呼吸が苦しい。
5. 腸閉塞で吐き気があるが、胃の管を入れる？
6. 鎮痛はいつごろから必要？
7. 最期は入院を希望するが、いつごろがめやす？

まちで暮らそう、  
 家で暮らそう、  
 あなたを支える在宅医療

下欄にご記入の上、岡山県保険医協会

**FAX.086-277-3371**

までお申し込みください。

ご住所	勤務先の場合は、勤務先の名称もお書きください。
電話番号	
FAX番号	
参加者の ご氏名	